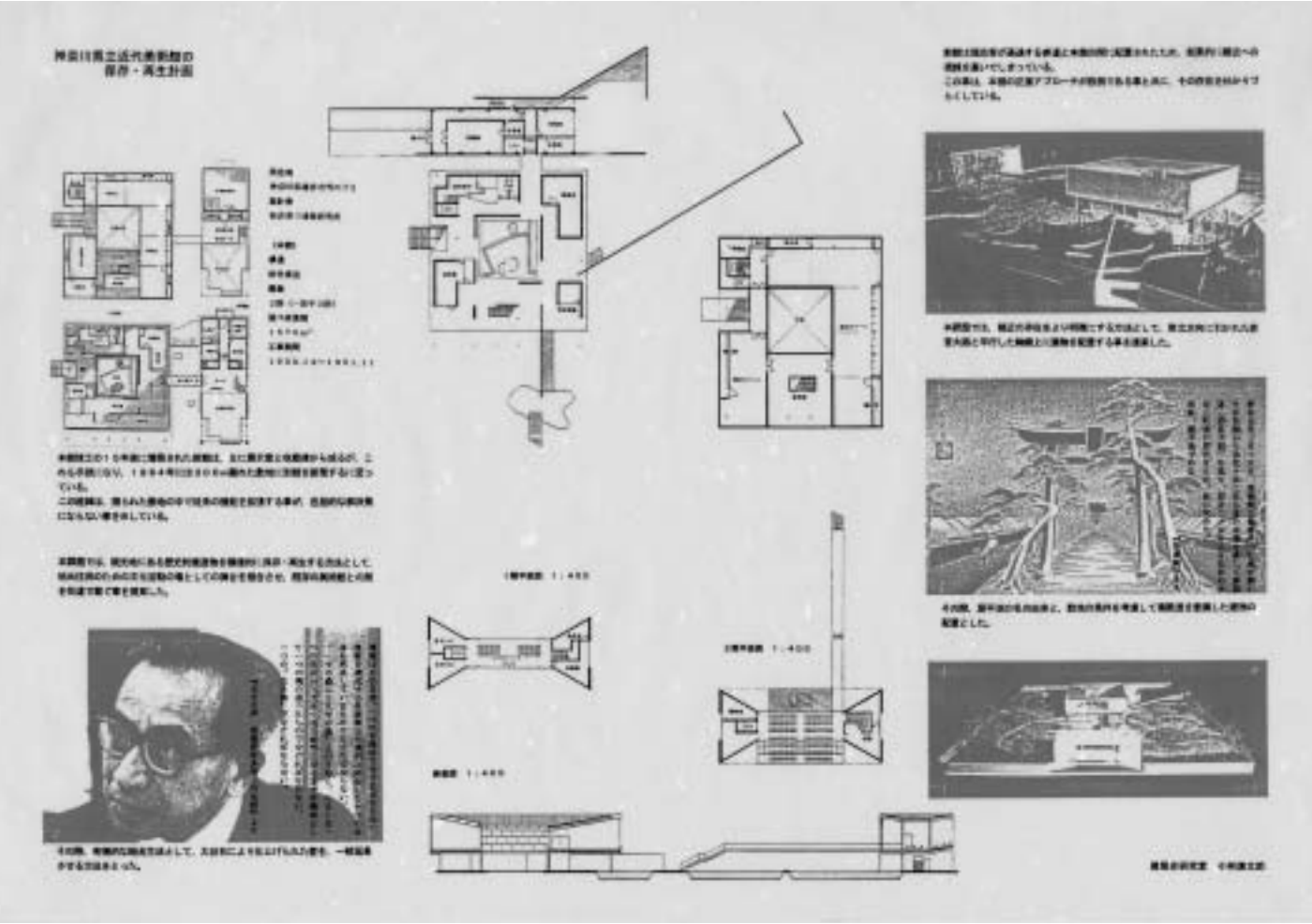
小林　謙太郎



設計演習Ⅱ

課題

プログラムの変容と再構築

4年

担当：

片桐　正夫

小林　謙太郎

日本におけるモダニズム建築の展開は戦後に本格化するが、その初期の傑作として坂倉準三設計の神奈川県立近代美術館（通称・鎌近）に着目した。

鎌近は戦後の鶴岡八幡宮周辺の観光地化に一役買うが、復興期に計画されたため、すぐに手狭になり、竣工の15年後には新館が増築されている。

その際の問題点を受けて本課題では、竣工後約半世紀を経た近代建築である鎌近を〈機能主義〉と〈配置計画〉を軸に保存・再生する案を提示した。

指導＝片桐　正夫

歴史的なある意味をもつ環境に建つ建築がどうあるべきかという問題は、建築家にとって永遠の課題のひとつである。

さて、既にその環境の中にひとつの答えが示されているのに対して、その答えを手直ししようというのがこの再生計画なのであるから、問題は更に複雑になり、その答えも多様な答えがありそうである。

この案では、つぎ足しによって不明確となった当初の理念のあるべき姿をとりもどすとともに、本館を含む空間の増拡によって新しい理念を提示しようとしたものである。そのため、対岸にある茶屋部分までを取り込んだ空間の中に、寝殿造りをモチーフにした設計を展開している。